

質問者



植田 喜晴 議員

Q

負担困難な家庭に支援を

A

就学援助支援を継続します

問 学校給食費の値上げで父母負担が増える。負担が困難な家庭に、就学援助による支援を求める。

答 永見教育長

平成17年度に国庫補助が廃止されましたが、町は経済的理由で就学が困難な児童・生徒の保護者を対象に、援助を行っています。

問 改めて、中止の意見表明を

後期高齢者医療制度は、4月1日の実施後も制度の問題や矛盾があらわれ、中止・再検討を求める声が全国で広がっている。これは、異例である。この声に応え、改めて、制度の中止を国に求める。

答 財政基盤の強化を要望

白石町長

この制度は、高齢化で増加する医療費を安定的に支えることと治療期間

中の生活・医療面が安心できる制度です。

国会でも、制度の見直し、廃止などの議論がなされていますが、町は継続可能な制度になるよう対策し、国へは財政基盤の強化を要望します。

問 必要な費用は確保を

老朽化した町営住宅の改修に、多くの費用を使うのは無駄との論調がある。しかし、入居者の安全と快適な住環境の確保は設置者の責務でありそのため必要な費用は予算で確保すべきである。

答 毎年補修予算を計上

栗田副町長

町営住宅の維持補修予算は、毎年計上し修繕しています。

大規模で多額な修繕費用の場合は、住み替えを提案し、同意が得られない場合はできる限りの修繕を行っています。



エミフルまさき

問 大型商業施設オープン後の対応は

① 危惧した交通問題は、公共交通利用など事業者の対策が功を奏し、大きな混乱もなく推移している。今後、公共交通利用の対策は恒常的に実施するよう事業者に求める。

② 新市街地にアクセスする町道筒井・西古泉道路の建設は必要がなくなった。水路の建設だけではない。

防災道路など道路整備は、今後全町的な見地で計画決定し実施すべきである。

③ 1ヶ月で200万人の賑わい(報道)であったが、不審者情報はこれまでより多くあり、治安・風紀対策は重要である。

④ 一方、地域には賑わいはない。今の中心市街地が、事業者と住民が共に暮らせる地域として存続するには、町の積極的な支援が必要である。

町にある「中心市街地活性化計画」はそれに応えられる内容か。計画の推進は検討されているか。

答 ①スムーズな交通体系の確保

郷田企画財政課長

交通渋滞対策は、伊予鉄運賃サービス、シャトルバス運行、エミフル内の循環バス運行と8月からのコミュニティバスの運行で、公共交通機関を利用したスムーズな交通体系を確保します。

答 ②補助幹線道路として整備

この道路建設計画は、町道が狭く災害時に松前公園や体育館への避難時に発生する渋滞緩和の解消です。あわせて、筒井浸水対策で付帯水路を計画しているため、道路建設

中止の考えはありません。

答 ③補導委員、青パト隊、警察との連携継続

エミフルまさきの保安体制は、24時間の警備体制をとっています。また、店内金融機関が県警との警備体制を独自にとっています。

町についても、補導委員、青パト隊の支援や警察との防犯体制を継続します。

答 ④旧商店街の振興、活性化に支援

中心市街地活性化基本計画は、義農公園、義農神社周辺を重点施策として平成13年から3年間で駐車場、周辺歩道の整備、街路灯の設置、トイレの改修を実施しました。今後、旧商店街の振興、活性化に支援していきます。浜交差点周辺の交通渋滞対策は、県へ改良要望し、実現へ取り組んでいきます。